

パワーエックスなど瀬戸内で産業芸術祭 船舶部品や製塩

2025/01/30 05:00 日本経済新聞電子版 1382文字

蓄電池事業を手掛けるスタートアップのパワーエックス（東京・港）などは2026年春にも船舶部品や製塩といった瀬戸内に立地する工場を舞台にした産業芸術祭を開く。製品を使った表現や技術の高さを生かした作品を展示し、工場そのものも見学できる。地域に根ざした産業を新たな視点で捉えるコンテンツをつくり、訪問者を呼び込み、地元の歴史への理解を深めてもらう。

29日、岡山県玉野市の宇野を中心としたエリアで3工場を巡るモニターツアーを実施した。パワーエックスが建設した蓄電池モジュール工場「Power Base」では黄色い光で電気を表現した。実際の制作はイベントのために結成されたクリエイターグループが手掛けた。

ライトの光量は変わっても床に映る光は安定して輝き続けている。発電量が揺らいでも蓄電池などの働きで安定した電力供給を実現する産業の在り方を感じてもらいたい。

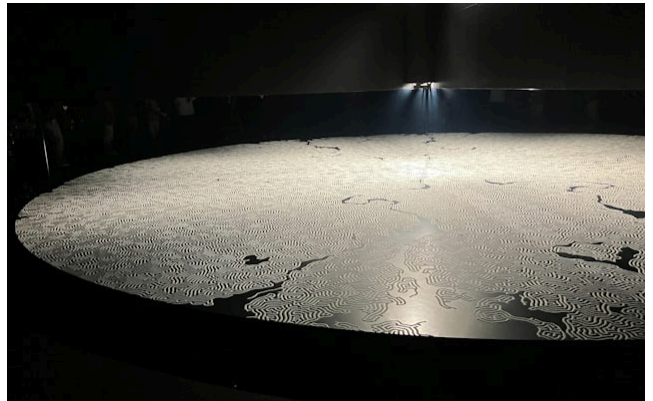
船舶用エンジン部品製造の宮原製作所（岡山県玉野市）は空気圧によって座面が上下するベンチを製作した。ベンチの脚の内部にピストンを仕込み、エアを漏らさない寸法の加工の精度や組み立てのノウハウが求められる。エンジン部品製造で培った技術力を生かした。

製塩業のナイカイ塩業（岡山県倉敷市）は塩を作る様子をとらえた映像作品や塩を使って瀬戸内海を表現した作品を展示。扇状の台の上に塩で瀬戸内の地形を描いて、端の2辺に鏡を設置して円のように見せた。

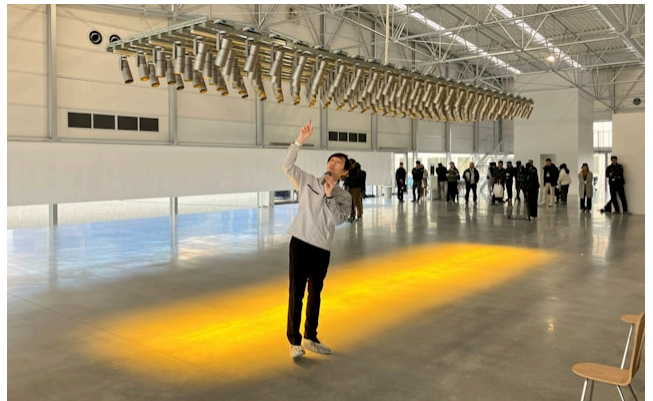
「瀬戸内は芸術を見に来る人も多く、観光が盛んだが、もっと様々な歴史や産業を知ってほしい」とパワーエックスの伊藤正裕社長は話す。地元のことをいかに理解してもらうかを考えた結果、地域に根付いた産業と、物事を多面的に表現できる芸術の組み合わせに目をつけた。

作品づくりは国内外で活躍する芸術家らと連携して仕上げる。瀬戸内海の島々や沿岸部を主会場として3年に1回開かれる瀬戸内国際芸術祭などで訪れた人が滞在日数を増やせば人流が生まれ、地域経済への波及効果も期待できる。

芸術祭本番は26年春ごろを目指す。来場者はアプリケーションを使って見学を受け入れている工場を確認、予約してから訪れる構想だ。今後、10社を目標に参加企業を募る。広島や愛媛など県外にも興味を持つ企業があるといい、瀬戸内エリアでの観光目的地の充実につなげる。



ナイカイ塩業では塩で瀬戸内海を描き、鏡を使って内から外への広がり表現した（29日、岡山県玉野市）



電気を表現した展示について説明するパワーエックスの伊藤社長（29日、岡山県玉野市）



宮原製作所では工場から海に抜ける風景を楽しむことができる（29日、岡山県玉野市）

工場に一般客が訪れて理解を深めれば、「作業スタッフも誇りに感じてモチベーションが高まる」（伊藤社長）。芸術祭の様子がSNSに上がることも予想される。参加企業の募集にあたって知名度向上など採用戦略面での利点も訴求する。

参加の狙いについてナйкаイ塩業は「ずっと塩を作り続けてきた伝統はあるが、新しい視点を持って取り組み、生き残っていかなければならない」とする。

今回のイベントは観光庁の「地域・日本の新たなレガシー形成事業」に採択され、中国運輸局や玉野市などと準備を進めている。将来的には毎年のテーマを設けて作品を変えるなど、持続可能な展示を追求したい考えだ。

パワーエックスは見学を受け入れるオープンファクトリーとしての利用を視野に入れ、玉野市の工場を建設した。25年の後半からは新たな製造棟の工事に入る予定で、「再来年くらいにはそちらも見学でき、コンテンツが増える」（同社）。会場を船で回ることも視野に入れるなど、芸術祭の魅力向上に向けて夢を膨らませる。

（中野颯太）

【関連記事】

- ・新興のパワーエックス、丸紅に大型蓄電池納入 10月稼働
- ・パワーエックス、従量課金のEV充電サービス 11月から
- ・パワーエックス、岡山の郵便局に県内産の大型蓄電池導入

許諾番号30102800 日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。

本サービスで提供される記事、写真、図表、見出しその他の情報（以下「情報」）の著作権その他の知的財産権は、その情報提供者に帰属します。

本サービスで提供される情報の無断転載を禁止します。

本サービスは、方法の如何、有償無償を問わず、契約者以外の第三者に利用させることはできません。

Copyrights © 日本経済新聞社 Nikkei Inc. All Rights Reserved.